

JFF アルミシクロクロスフレーム ～実現までの道のり～



▲中国工場の生産キャパは1日軽く3桁ありました。

▶「ごめんなさい、もう作ってあげられないんです…」アルミ4モデルを生産してくれていた中国の工場から突然の知らせが届きました。初めて訪れてから5年近くの間工場は製品クオリティーが更に高まり、金融界もバックに就く欧州の新進鋭某ブランドにほぼ支配されてしまったのです。我々のキャパとゼロが幾つか違う規模ですから何とも無力で仕方ないのですが、工場と依頼者(弊社)が双方の力も気持ちも良い関係に落ち着かせ、出来るだけ細やかな事を行ないながらも関係性を維持する事は、小さな個性でも発揮し続ける必要性のある弊社には不可欠であり、それを実現してくれていただけにショックでした。担当マネージャーは何度も支配先に掛け合ってくれましたが、無理でした。

▶自分達の願いを聞いていただける工場探しがまた始まりました。既に4モデルが実現した状況で、新たな工場でそのクオリティーを内容価格ともに継承し更に高めることは至難の技。結果、2020年にニューモデル「JFF#807」を一度発表しながらも最終的に商品として納得できるものにならず、本年9月ようやく発売できたのでした。最終的にお願いを聞いてくれた台湾の工場は、こちらの経緯を理解してくれた上で、既に前モデルがあっただけに更に良いものを作ろうというプライドを持ってして対応してくれました。



▲台湾工場で最初に出来た#807のテストフレーム。



▲テストライド、U23チャンピオンの鈴木来人選手、辻浦圭一氏、居合わせたボンシヤンスの福島晋一監督。

▶#807のテーマは究極の場面での高いコントロール性を維持しながらも、レースの高速化に対応できる仕上げにすること。実績を積み上げてきたジオメトリーにも数ミリ、コンマ数度単位で手を加え、特に後輪のグリップを更に高める工夫をアルミパイプの扁平加工などで行い、かかり、進み、踏み出しの良さを持つ総合的なバランスの良いフレームを追求しました。完成に至るには、実戦使用からのフィードバックを基に何度も試作を重ねて煮詰めて行き、試走を重ね更に作り変えを行なって量産に漕ぎ着けました。



▲バランス感の高いバイクコントロールで他を圧倒する鈴木来人選手。(今季よりフランスUCIシクロクロスチームSINEOルデアックに移籍)



▲全日本U23チャンプとなった鈴木来人選手と辻浦圭一氏。

▶#807はカラーオーダー以外にブラッシュシルバーというカラーリングがあります。これは近年量産工場で行われなくなった手作業による表面研磨から生み出される美しい仕上げ。実はフレーム自体と共にこれをどうしても今の時代に実現したく、ある台湾の別工場がこの作業だけを請け負ってくれました。欧米有名ブランドのカーボン製品などを作る一流工場なのですが、その社長が、そんなに困っているならやってあげるわ、と。工場を持たない弊社の命綱は人間同士の関係というところがあり、それは数字では表せない心の奥底で成り立っていると言うことを改めて感じさせられた有難い出来事でした。



▲今年の9月ようやく商品として仕上がったJFF#807の各サイズ。



▲完成までには数多くのプロトタイプを作りテストしました。



我々が生産を断られた中国の工場を仕切っていた台湾出身の担当女性マネージャーとは、数字ではほんの僅かなお付き合いでしたが、寡占化が進むこの世界でもギリギリまで頑張ってくれました。すぐ後に退職されたと聞き、後にお礼にと陶磁器を送ってきてくれました。この人が居なかったら#807まで辿り着けてなかっただろうなと思います。